
2022年8月期 決算説明会

2022年10月12日

Right-on[®]

1. 2022年8月期 決算概要 P. 2
2. 2023年8月期 通期業績予想 P.20

1. 2022年8月期 決算概要

※ 2022年7月12日開催の取締役会で台湾莱特昂股份有限公司（連結子会社）の解散を決議し、期末日現在清算手続き中であるため、その重要性が乏しくなったことから連結範囲から除外し、2022年8月期末より連結決算から非連結決算へ移行しております。実績数値につきましては、前期連結決算の参考数値には注釈を入れており、それ以外は全て個別の実績数値となります。

新型コロナウイルス感染再拡大による客足の減少等により売上高は計画を下回り、また値引き販売の増加や製品原価の上昇等の影響で売上総利益率が低下したため、経常利益は7百万円にとどまった

業績動向

売上高

- 売上高は期初計画比**92.7%** となった（前期比**97.4%**）
 - ➡新型コロナウイルスの感染再拡大による客足の減少に加え、気温の変化に対応できる商品の品揃えが不足したこと、またプライベートブランドの売上が伸び悩み、売上高は計画を下回った。

売上総利益

- 売上総利益は期初計画比**91.4%** となった（前期比**94.6%**）
 - ➡在庫消化のための値引き販売が増加したこと、原材料費及び輸送費の高騰や急激な為替変動の影響により製品原価が上昇したため、売上総利益率は前期**50.7%**から**49.3%**へ低下。

販管費

- 販管費は期初計画比**93.3%** となった（前期比**94.0%**）
 - ➡引き続き、各費目ごとに効率的な運用に努めた結果、販管費を抑制することができた。

外的要因

- **新たな変異株による新型コロナウイルスの感染再拡大による客数の伸び悩み**

ワクチン接種の進展が進んだことで、新型コロナウイルスによる影響は緩和され、売上は緩やかに回復に向かうと想定していたものの、変異株による第6波、第7波が過去最大の感染状況となるなど客足への影響があった。

- **相次ぐ物価上昇やガソリン価格高騰の長期化による消費低迷**

原料価格の高騰に加え、不安定な海外情勢や急激な為替変動などにより、物価上昇が相次いでいることやガソリン価格高騰が長期化していることなどから先行きの不透明感が増し、消費の低迷へとつながった。

内的要因

- **実需にマッチした商品提案が不十分**

気温対応が可能なシャツや一重アウターなどの羽織物の品揃えが不足し、実需にマッチした商品提案が不十分だった。春と秋の端境期において、長袖Tシャツやスウェットに偏った品揃えとなり、売上が伸び悩んだ。

- **プライベートブランド（PB）の売上計画の未達**

差別化戦略と収益性向上のエンジンとしてPBの強化を進めてきたが、顧客セグメントごとに最適な品揃えが実現できなかったことで、PB売上構成比は前年同期と同水準にとどまった。ただし、CAMP 7は堅調な成長を維持できた。

2022年8月期 業績

※21/8実績は連結決算の参考数値となります。

単位（百万円） 下段は構成比

	21/8 実績	22/8 実績	22/8 期初計画	期初計画 達成率	22/8 修正計画 (2022/4/12修正)	修正計画 達成率
売上高	49,605 (100.0%)	48,229 (100.0%)	52,000 (100.0%)	92.7%	50,500 (100.0%)	95.5%
売上総利益	25,164 (50.7%)	23,762 (49.3%)	26,000 (50.0%)	91.4%	24,740 (49.0%)	96.0%
販売費及び 一般管理費	25,115 (50.6%)	23,523 (48.8%)	25,200 (48.5%)	93.3%	24,090 (47.7%)	97.6%
営業利益	49 (0.1%)	239 (0.5%)	800 (1.5%)	29.9%	650 (1.3%)	36.8%
経常利益	87 (0.2%)	7 (0.0%)	700 (1.3%)	1.1%	500 (1.0%)	1.5%
特別利益	349 (0.7%)	276 (0.6%)	0 (0.0%)	—	270 (0.5%)	102.2%
特別損失	2,339 (4.7%)	716 (1.5%)	100 (0.2%)	716.1%	470 (0.9%)	152.4%
税引前 当期純利益	△1,901 (-)	△432 (-)	600 (1.2%)	—	300 (0.6%)	—
当期純利益	△2,070 (-)	△1,166 (-)	200 (0.4%)	—	50 (0.1%)	—
店舗数	412店舗	394店舗	388店舗	—	—	—

2022年8月期 業績 ※非連結決算の数値比較

単位（百万円） 下段は構成比

	21/8 実績	22/8 実績	前年 増減額	前期比
売上高	49,536 (100.0%)	48,229 (100.0%)	△1,306	97.4%
売上総利益	25,120 (50.7%)	23,762 (49.3%)	△1,357	94.6%
販売費及び 一般管理費	25,037 (50.5%)	23,523 (48.8%)	△1,514	94.0%
営業利益	83 (0.2%)	239 (0.5%)	156	288.4%
経常利益	90 (0.2%)	7 (0.0%)	△82	8.6%
特別利益	349 (0.7%)	276 (0.6%)	△73	78.9%
特別損失	2,351 (4.7%)	716 (1.5%)	△1,635	30.5%
税引前 当期純利益	△1,910 (-)	△432 (-)	1,478	-
当期純利益	△2,079 (-)	△1,166 (-)	913	-
店舗数	412店舗	394店舗	△18店舗	-

収益認識に関する会計基準の適用に伴う影響額

	単位（百万円） 下段は構成比		
	22/8 実績 組替前	22/8 実績 組替後	影響額
売上高	48,456 (100.0%)	48,229 (100.0%)	△226 (-)
売上総利益	23,958 (49.5%)	23,762 (49.3%)	△195 (-)
販売費及び 一般管理費	23,718 (48.9%)	23,523 (48.8%)	△195 (-)
営業利益	239 (0.5%)	239 (0.5%)	-
経常利益	7 (0.0%)	7 (0.0%)	-
特別利益	276 (0.6%)	276 (0.6%)	-
特別損失	716 (1.5%)	716 (1.5%)	-
税引前 当期純利益	△432 (-)	△432 (-)	-
当期純利益	△1,166 (-)	△1,166 (-)	-

組替による影響額

- 代理人取引に係る収益認識
 ➔ 当社の役割が代理人に該当する一部の販売取引において、総額から純額で収益を認識する方法に変更。
- 提携している他社運営のポイント制度に係る収益認識
 ➔ 従来は販売促進費として計上していたが、売上高から控除する方法に変更。

売上高 ▲226百万円

他社ポイント付与分 △195百万円

一部の代理人取引分 △31百万円

売上原価 ▲31百万円

一部の代理人取引分 △31百万円

販管費 ▲195百万円

他社ポイント付与分 △195百万円

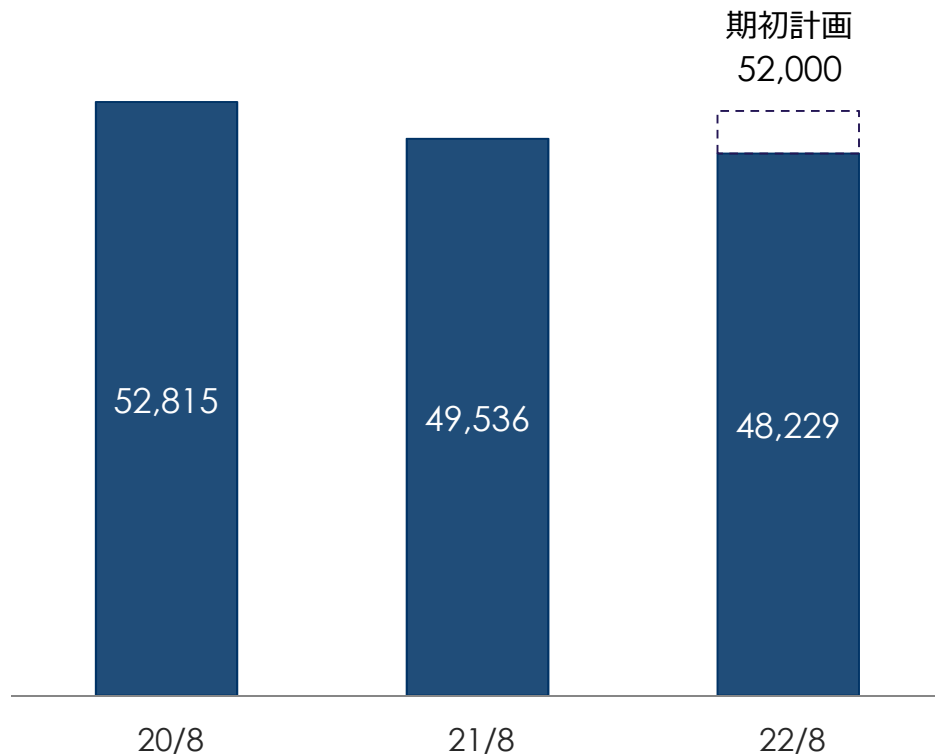
売上総利益
▲195百万円

①売上高

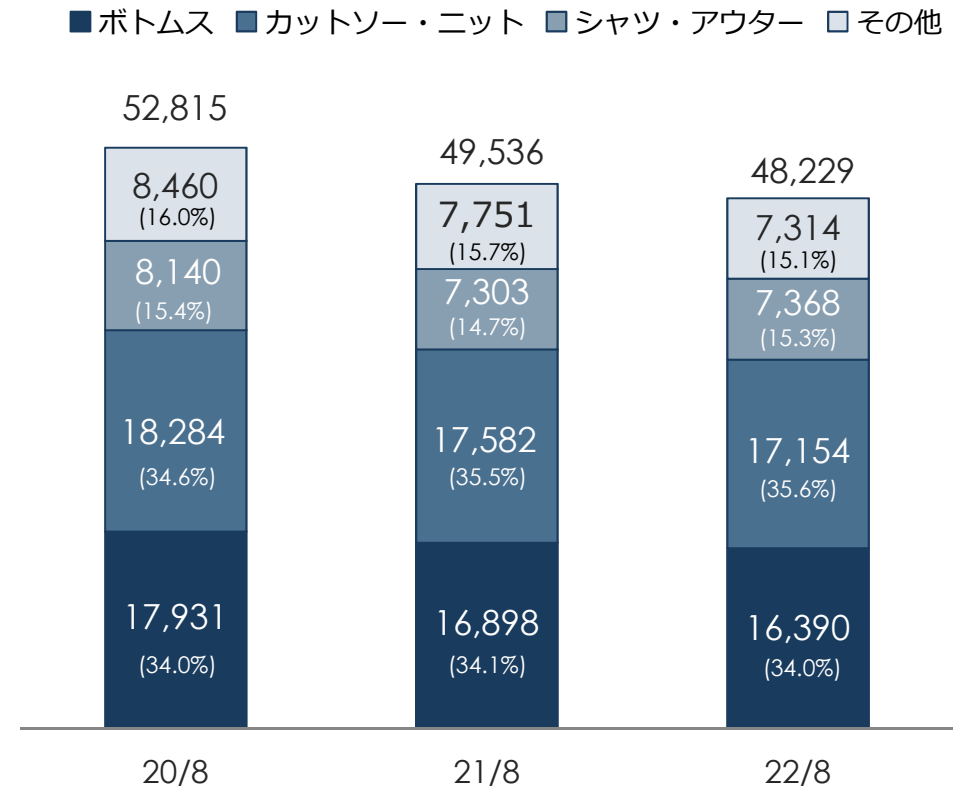
売上高及び部門別売上高構成比について

- 売上高は期初計画比**92.7%**（前期比**97.4%**）の減収となった
- 部門別の売上高構成比は前年同期と比べ大きな変化はなかったが、気温低下で防寒アウターなどの冬物商品の売れ行きが好調だったことでシャツ・アウター部門の売上高は前年を上回り、売上高構成比も前期比で**0.5ポイント上昇**した

売上高（百万円）

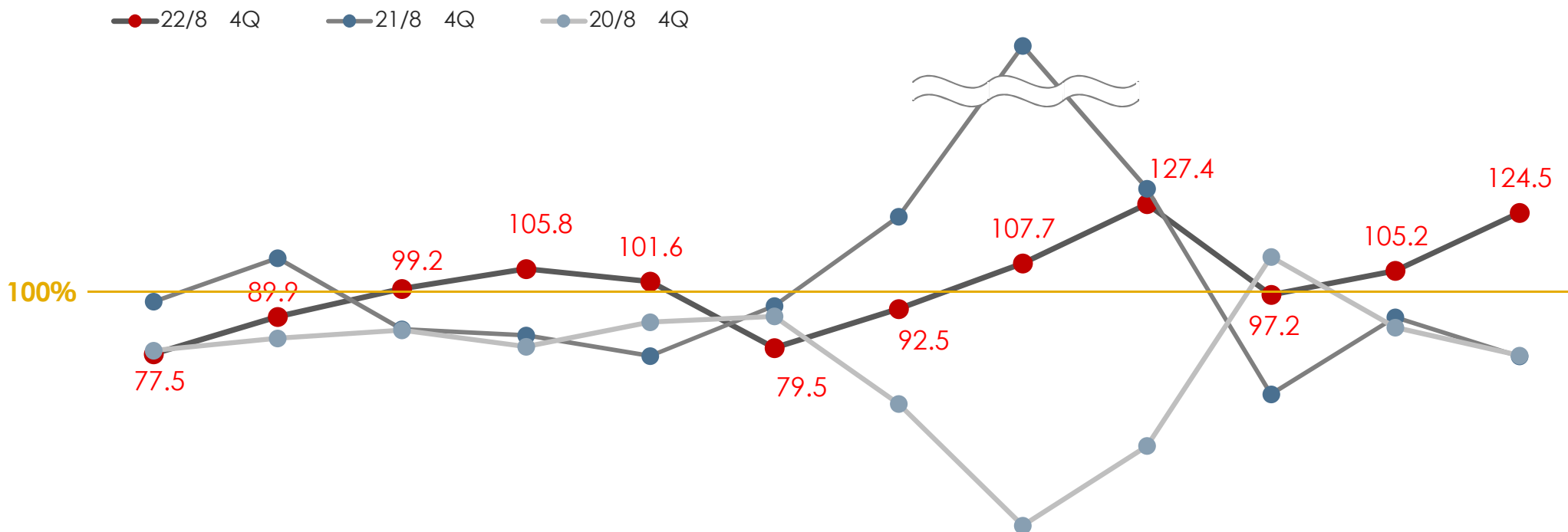


売上高構成比（百万円・%）



①売上高 – 既存店前年比

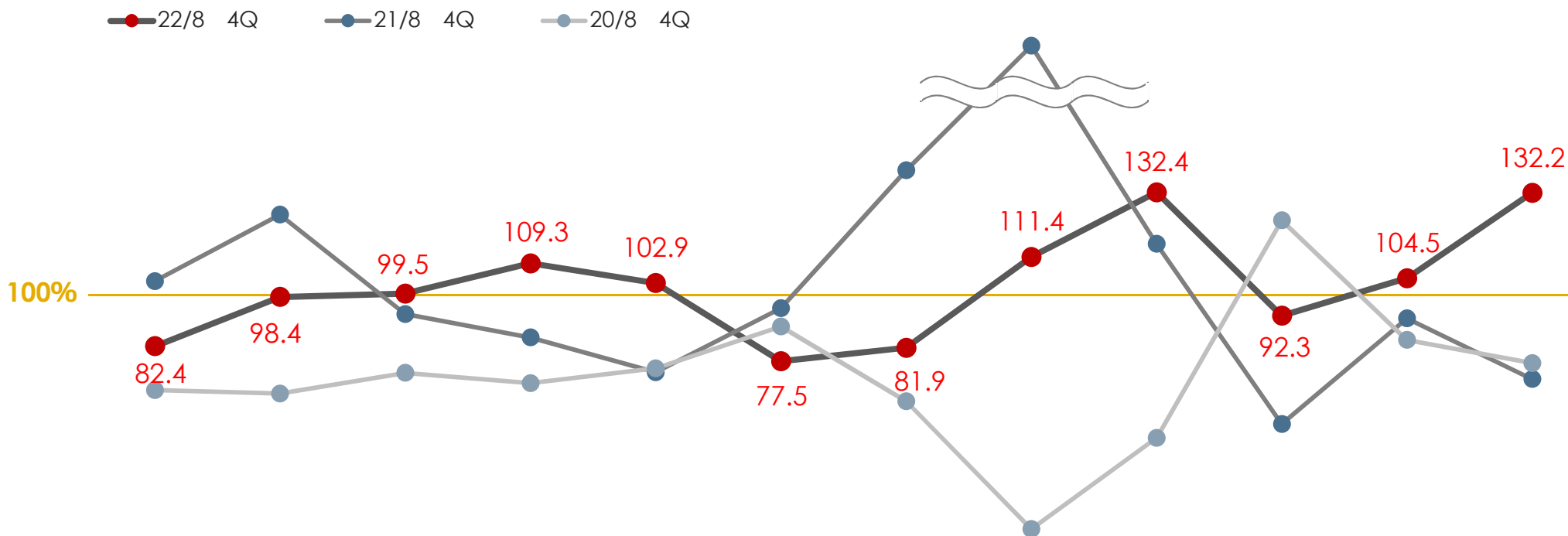
既存店売上高 (%)



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上期計	3月	4月	5月	6月	7月	8月	下期計	通期計
22/8	77.5	89.9	99.2	105.8	101.6	79.5	94.5	92.5	107.7	127.4	97.2	105.2	124.5	107.4	100.2
21/8	94.9	109.4	85.7	83.7	76.8	93.5	89.4	123.2	341.1	132.5	64.1	89.7	76.7	107.3	96.6
20/8	78.6	82.7	85.4	79.9	88.1	90.0	83.5	60.9	20.4	46.9	109.8	86.3	77.0	64.4	74.6

①売上高 – 既存店前年比

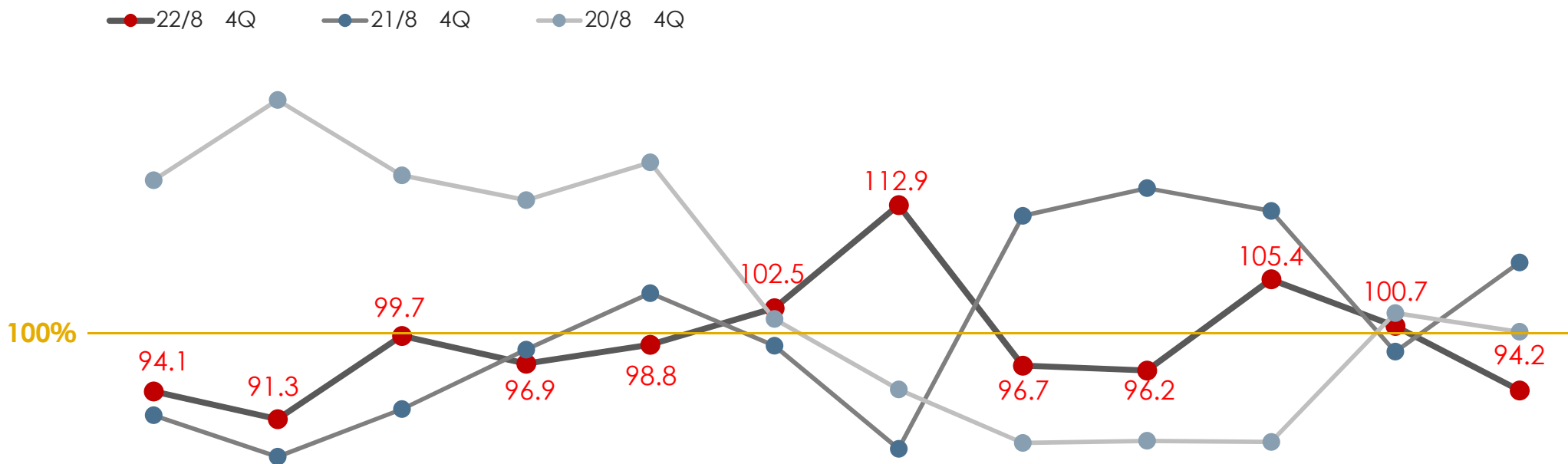
既存店客数 (%)



	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上期計	3月	4月	5月	6月	7月	8月	下期計	通期計
22/8	82.4	98.4	99.5	109.3	102.9	77.5	97.3	81.9	111.4	132.4	92.3	104.5	132.2	106.3	101.7
21/8	103.5	125.1	92.8	85.2	73.9	94.7	93.3	139.5	305.1	115.6	57.1	91.4	71.7	100.7	96.8
20/8	68.1	67.0	73.7	70.4	75.2	88.8	72.7	64.5	23.0	52.6	123.3	84.4	76.9	70.2	71.5

①売上高 – 既存店前年比

既存店客単価 (%)

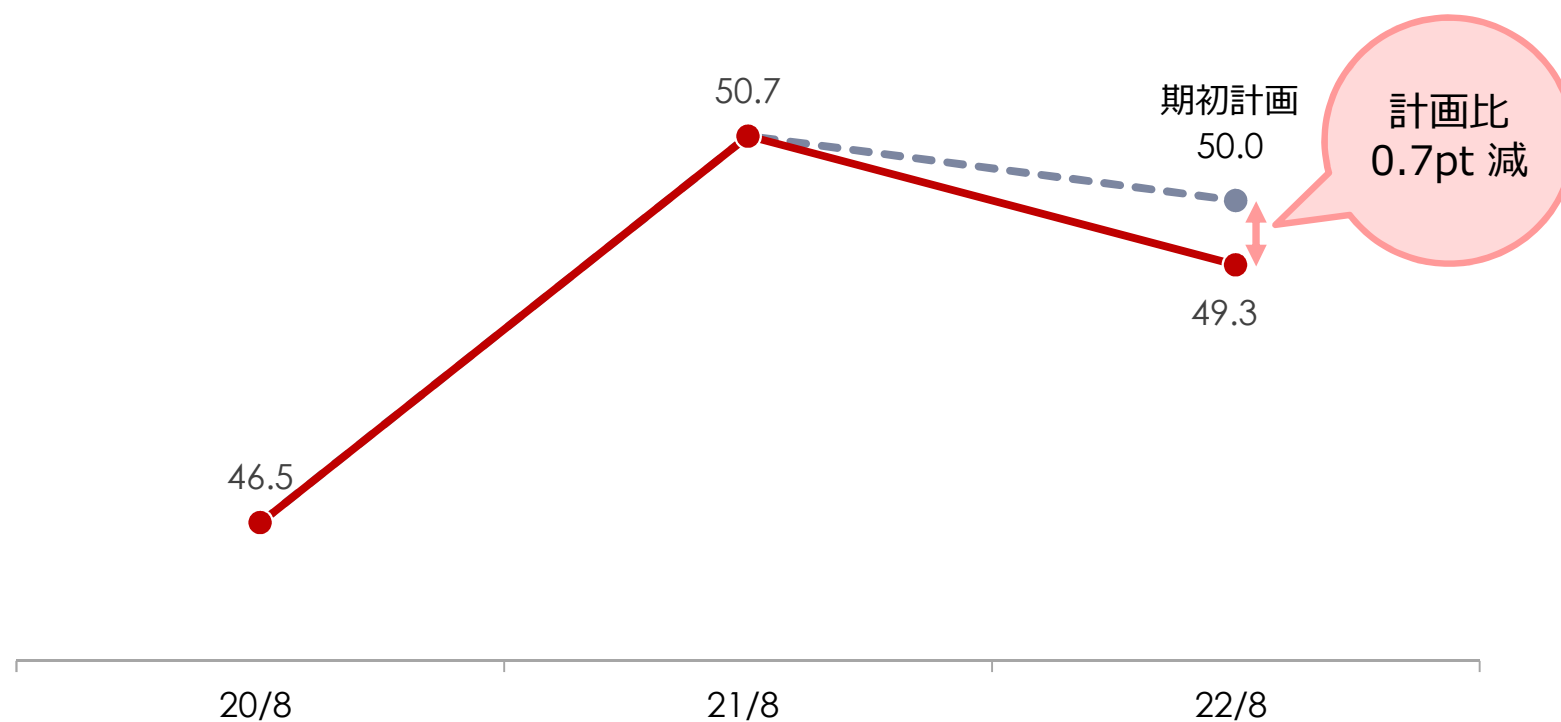


	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上期計	3月	4月	5月	6月	7月	8月	下期計	通期計
22/8	94.1	91.3	99.7	96.9	98.8	102.5	97.1	112.9	96.7	96.2	105.4	100.7	94.2	101.0	98.5
21/8	91.7	87.5	92.3	98.3	104.0	98.7	95.8	88.3	111.8	114.6	112.3	98.1	107.1	106.6	99.8
20/8	115.4	123.5	115.9	113.4	117.2	101.4	114.9	94.3	88.9	89.1	89.0	102.0	100.1	91.7	104.3

②売上総利益率

- 売上総利益率は**49.3%**となり、期初計画比**0.7ポイント**、前期比**1.4ポイント**下回った
- 売上総利益率悪化の主な要因は、在庫消化のための値引き販売が増加したことと、原材料費及び輸送費の高騰や急激な為替変動の影響により製品原価が上昇したこと

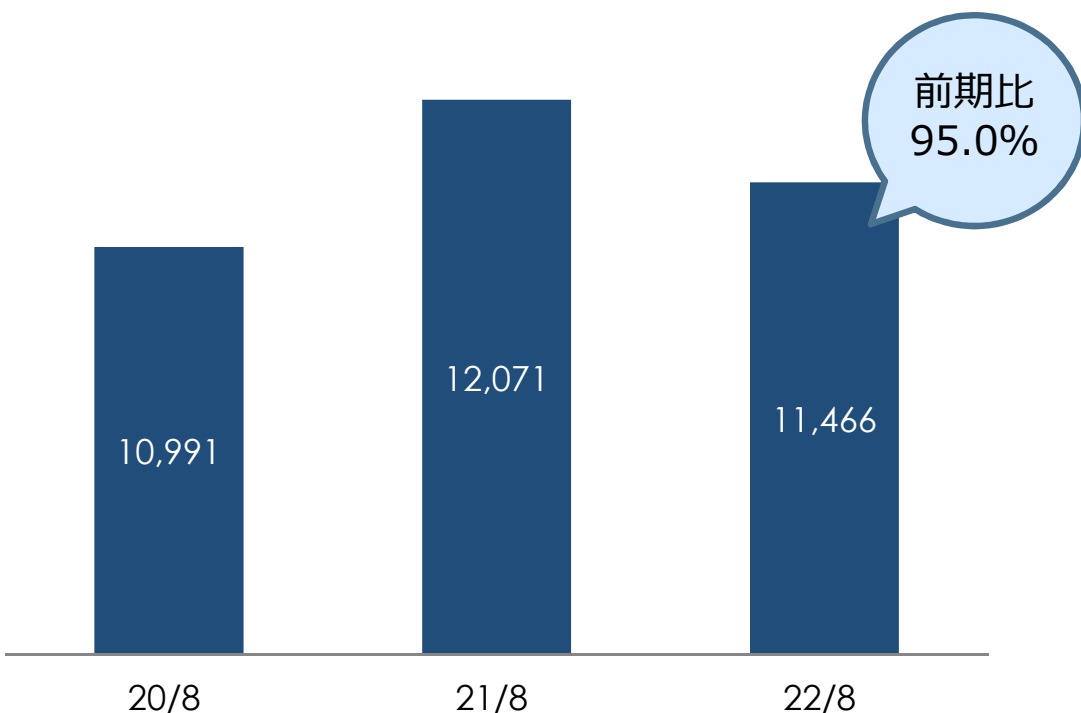
売上総利益率 (%)



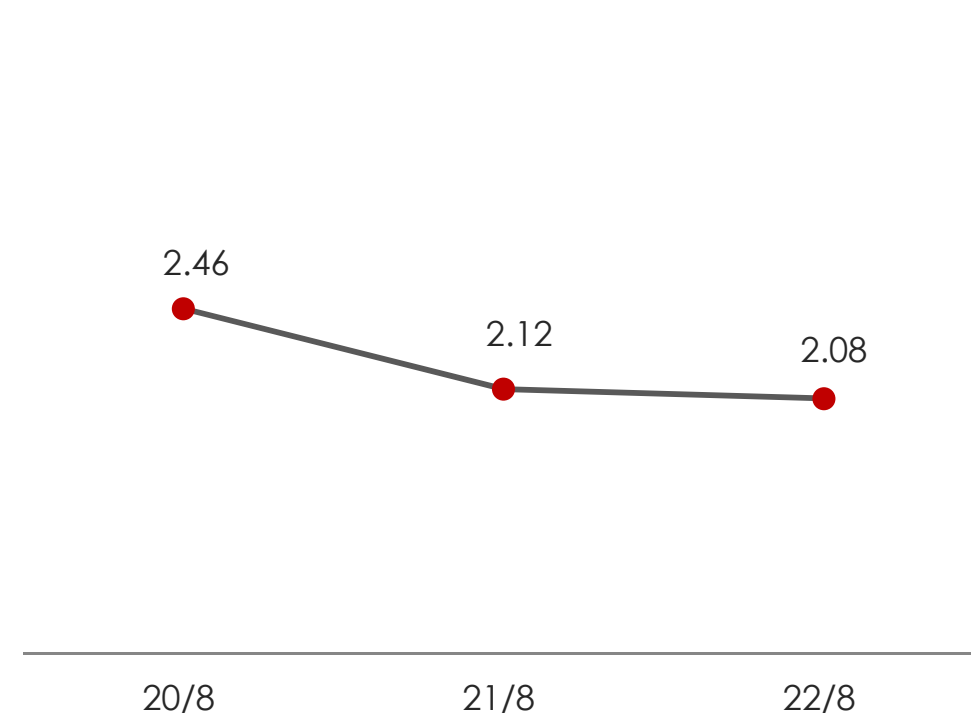
③在庫・在庫回転数

- 期末在庫原価は、前期比**95.0%**となった
- 在庫消化のための値引きロスが増加したことで、売上総利益率は低下したが、持ち越し在庫は大幅に低減し、適正な在庫水準を維持できた
- 在庫回転数は前期と同水準の**2.08回転**となった

期末在庫原価の推移（百万円）



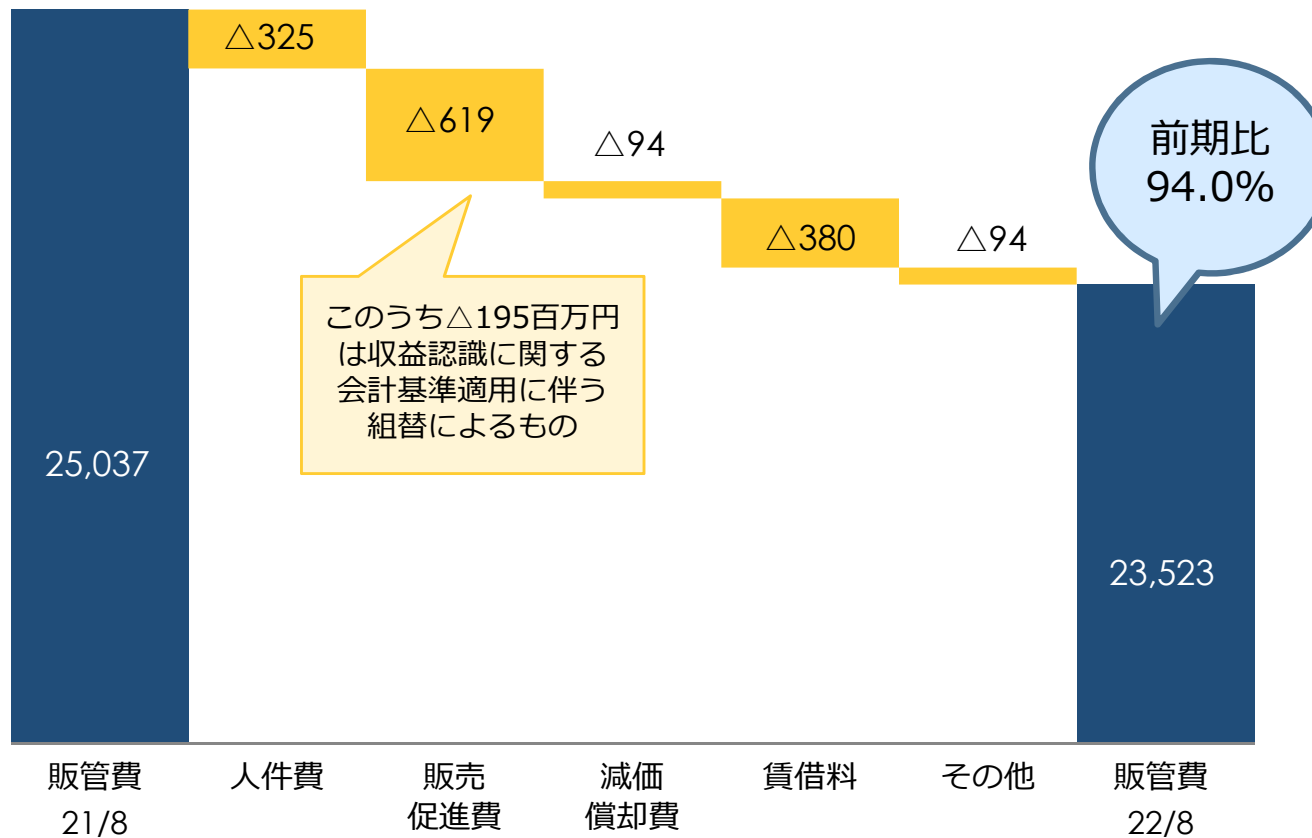
在庫回転数の推移（回）



④販売費及び一般管理費

- 各費目ごとに効率的な運用に努めた結果、販管費は前期比**94.0%**まで抑制した

販管費 費目別の削減額（百万円）



■ 人件費

- 店舗の組織編成の見直し
- ➡ 人員配置の適正化・アルバイトの効率運用
- 新規採用の抑制
- 売上規模に合わせ店舗人員を調整

■ 販売促進費

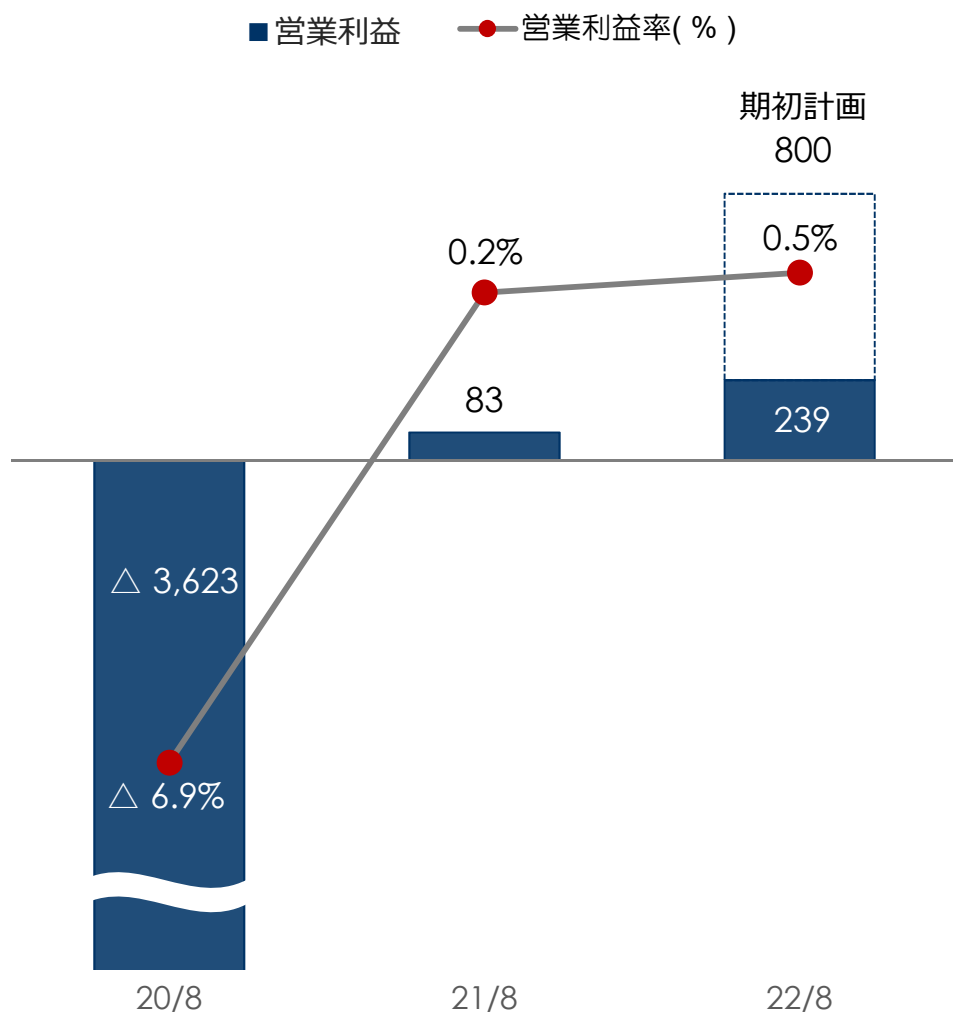
- 活動内容の集中とデジタル化を推進し、販売促進を効率化
- ➡ POPなど印刷物の削減を実現し、販売促進費抑制

■ 賃借料

- 不採算店舗の退店
- デベロッパーとの交渉による賃料減額

⑤ 営業利益および販管費の内訳

営業利益（百万円）



販管費の内訳（%）

	21/8 実績	22/8 実績
売上高比	50.5	48.8
内) 人件費	16.9	16.7
販売促進費	3.0	1.9
減価償却費	1.7	1.5
賃借料	17.6	17.3
その他	11.3	11.4

⑥特別損失

- 特別損失として**716百万円**を計上。前期比で**1,635百万円**の減少
- 主な内訳として、不採算店舗の減損損失**571百万円**、新型コロナウイルスの影響による大型商業施設の時短営業期間中の固定費等の損失**70百万円**を計上

特別損失の内訳（百万円）

	21/8 実績	22/8 実績	増減
特別損失	2,351	716	△1,635
固定資産除却損	6	35	28
店舗閉鎖損失	176	8	△167
解約違約金	165	—	△165
減損損失	1,449	571	△877
新型コロナウイルス関連	411	70	△340
希望退職関連費用	83	—	△83
その他	59	29	△29

⑦貸借対照表

- 現預金は前期末比で**2,065百万円**の増加
…取引金融機関から総額**5,650百万円**新規借入を実施し、短期借入金**2,560百万円**を返済したことなどによる
- 商品は前期末比で**604百万円**の減少
…売上に応じて仕入れを調整したことや、前期の持ち越し在庫の消化を積極的に進めたことなどによる
- 純資産は前期末比で**281百万円**の増加
…2021年10月28日に実施した豊島株式会社を割当先とする第三者割当による自己株式の処分により**1,434百万円**増加したことなどによる

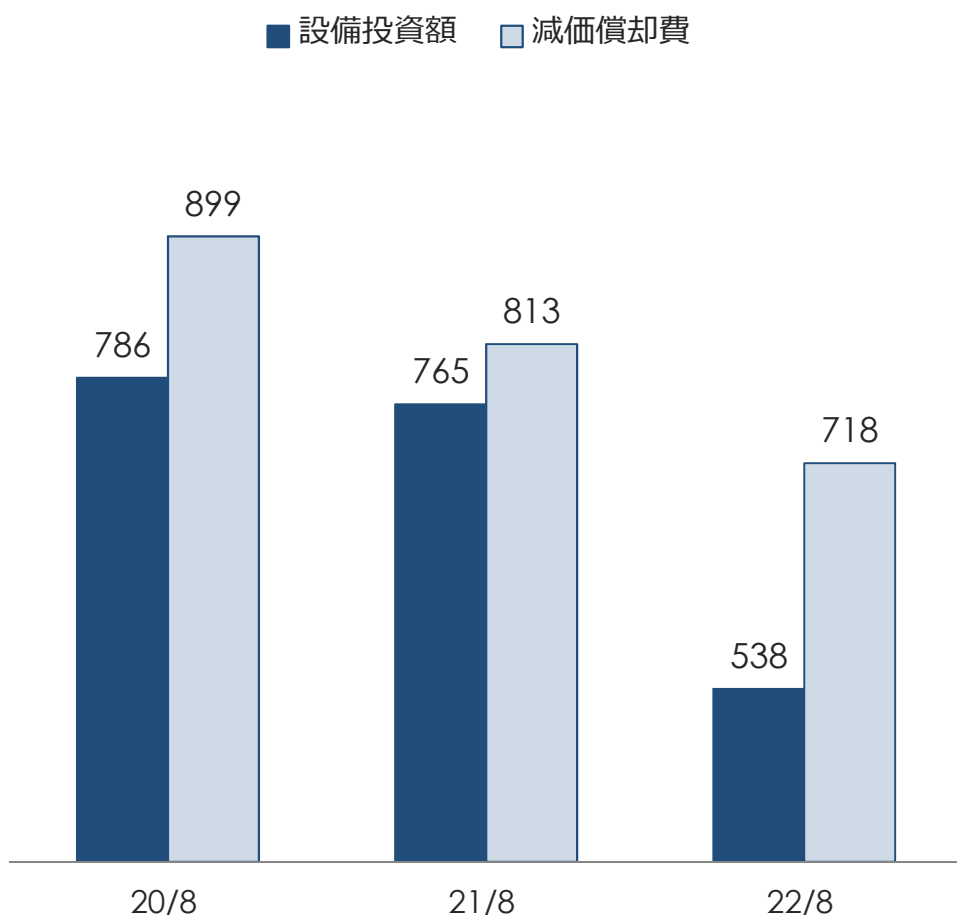
(百万円)

	21/8 4Q 実績		22/8 2Q 実績		22/8 4Q 実績			
		構成比		構成比		構成比	21/8 4Q実績 との増減	22/8 2Q実績 との増減
流動資産	19,975	58.6%	19,861	60.0%	21,412	62.9%	1,437	1,550
現預金	6,153	18.1%	6,907	20.9%	8,218	24.1%	2,065	1,311
商品	12,071	35.4%	11,631	35.2%	11,466	33.7%	△604	△165
固定資産	14,097	41.4%	13,220	40.0%	12,627	37.1%	△1,469	△592
資産合計	34,072	100.0%	33,081	100.0%	34,040	100.0%	△32	958
負債合計	19,317	56.7%	16,839	50.9%	19,003	55.8%	△313	2,163
有利子負債	7,320	21.5%	5,340	16.1%	7,679	22.6%	359	2,339
純資産	14,755	43.3%	16,242	49.1%	15,036	44.2%	281	△1,205

⑧設備投資額および減価償却費、キャッシュ・フロー

- 引き続きコロナ禍の対応として、設備投資計画の見直しを行った結果、設備投資額は**538百万円**（前期比**70.3%**）となった

設備投資額および減価償却費（百万円）



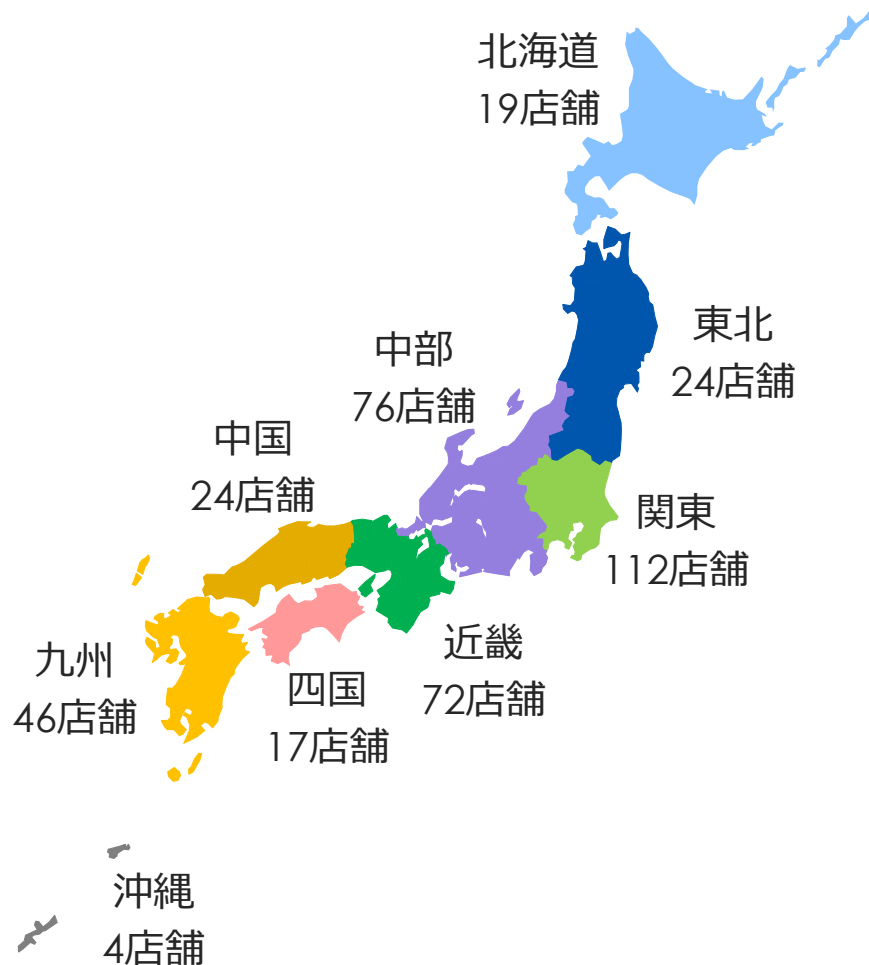
キャッシュ・フロー（百万円）

	21/8 実績	22/8 実績
営業活動による キャッシュ・フロー	△528	682
投資活動による キャッシュ・フロー	△471	△287
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,025	1,669
現金及び現金同等物の 増減額	△4,026	2,065
現金及び現金同等物の 期首残高	10,204	6,153
現金及び現金同等物の 期末残高	6,183	8,218

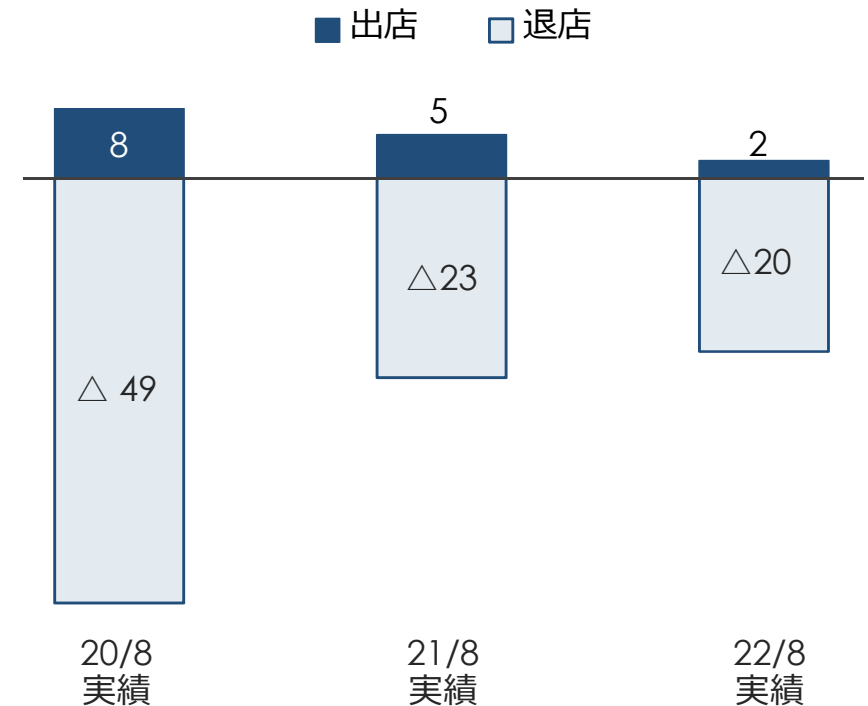
※21/8実績は連結決算の参考数値となります。

⑨店舗状況

- 当初計画**26店舗**の閉店予定に対し、**20店舗**の閉店を実施（計画比▲**6店舗**）
- 当初計画通り不採算店舗の整理を進める一方、デベロッパーとの交渉を継続して行い、賃料減額など条件面の改善ができた一部店舗においては営業を継続
- 期末店舗数は**394店舗**



■ 期末出退店状況



2. 2023年8月期 通期業績予想

2023年8月期 通期業績計画

- 新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとした、新しい消費行動・市場の変化は元に戻らず、この変化はさらに進むと想定するものの、ワクチン接種の進行により行動制限等が徐々に緩和され、経済社会活動の正常化が進んでいくことから、売上高は緩やかに回復していくと想定

単位（百万円） 下段は構成比

	22/8実績	23/8計画	
			前期比
売上高	48,229 (100.0%)	52,000 (100.0%)	107.8%
売上総利益	23,762 (49.3%)	25,800 (49.6%)	108.6%
販売費及び一般管理費	23,523 (48.8%)	25,200 (48.5%)	107.1%
営業利益	239 (0.5%)	600 (1.2%)	250.6%
経常利益	7 (0.0%)	500 (1.0%)	—
当期純利益	△1,166 (-)	100 (0.2%)	—
1株当たり当期純利益（円）	△39.86	3.38	—

2023年8月期 通期業績計画のポイント

- 売上総利益率は、初期発注数の適正化と適正な在庫コントロールによる値引き販売比率の低減と、調達原価率の改善に取り組み、前期比**+0.3ポイント**の計画
- 販管費は、売上拡大に向けた施策を強化することによる販売促進費の増額の計画に加え、売上拡大に伴う変動費増加により、前期比**107.1%**の計画

既存店売上高前年比／売上総利益率 (%)

	22/8 実績	23/8 計画		
		上期	下期	通期
既存店 売上高前年比	100.2	109.0	110.5	110.0
売上総利益率	49.3	49.6	49.6	49.6

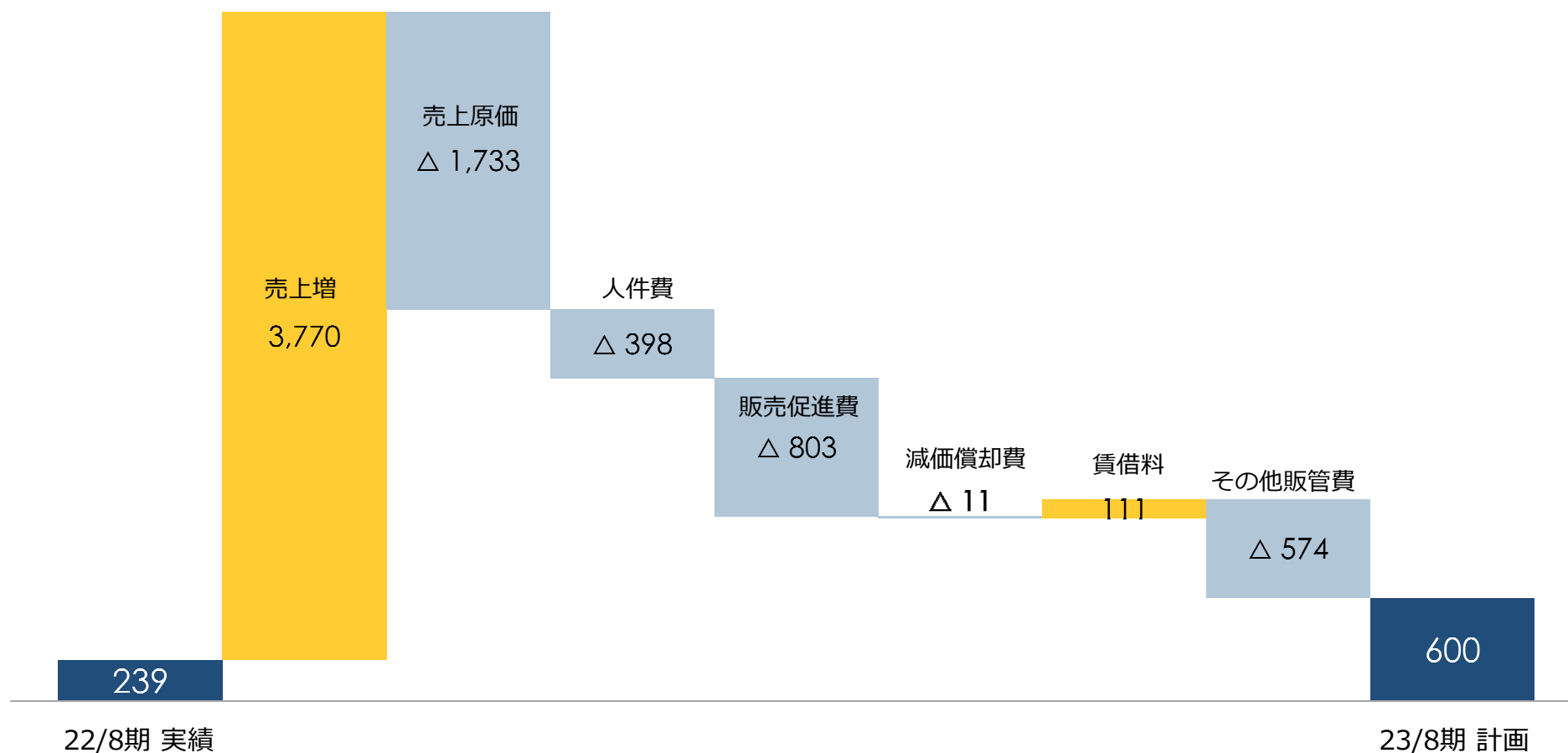
販管費の内訳 (百万円)

	22/8実績	23/8計画
販売費及び一般管理費	23,523	25,200
内) 人件費	8,051	8,450
販売促進費	886	1,690
減価償却費	718	730
賃借料	8,351	8,240
その他	5,515	6,090

2023年8月期 通期営業利益増減要因

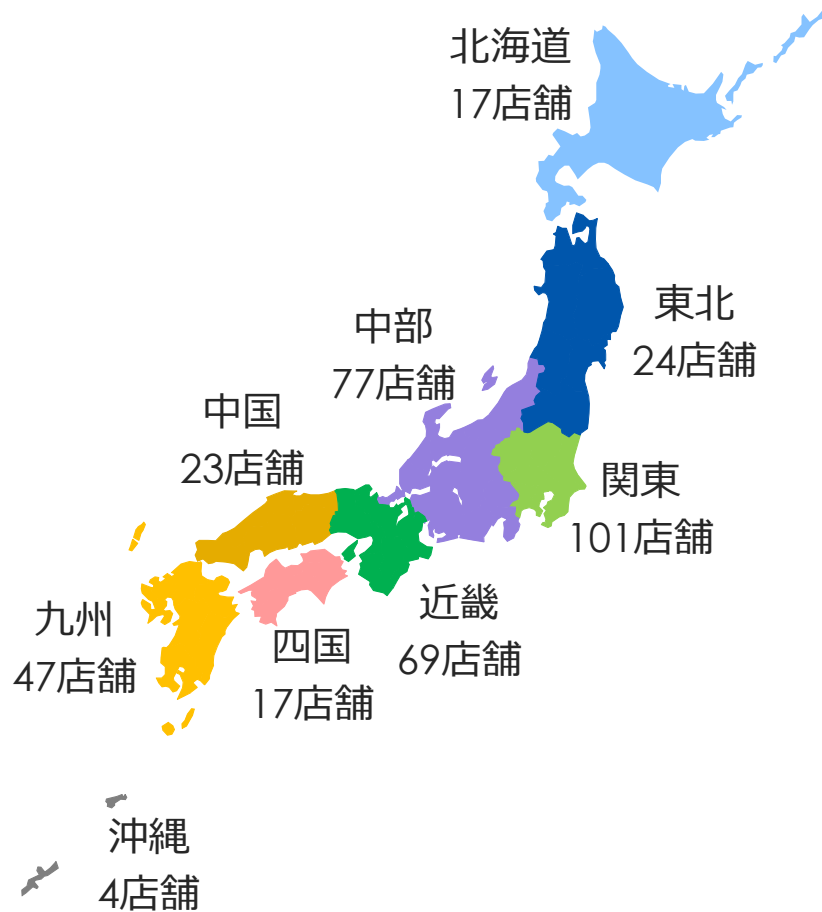
- 原材料費及び輸送費の高騰や急激な円安の影響による売上原価増などマイナス要因はあるものの、行動制限の緩和による緩やかな客数の回復と、積極的な販売促進活動を行うことによる売上の回復により、通期営業利益**600百万円**を見込む

営業利益 費目別の増減額 (百万円)

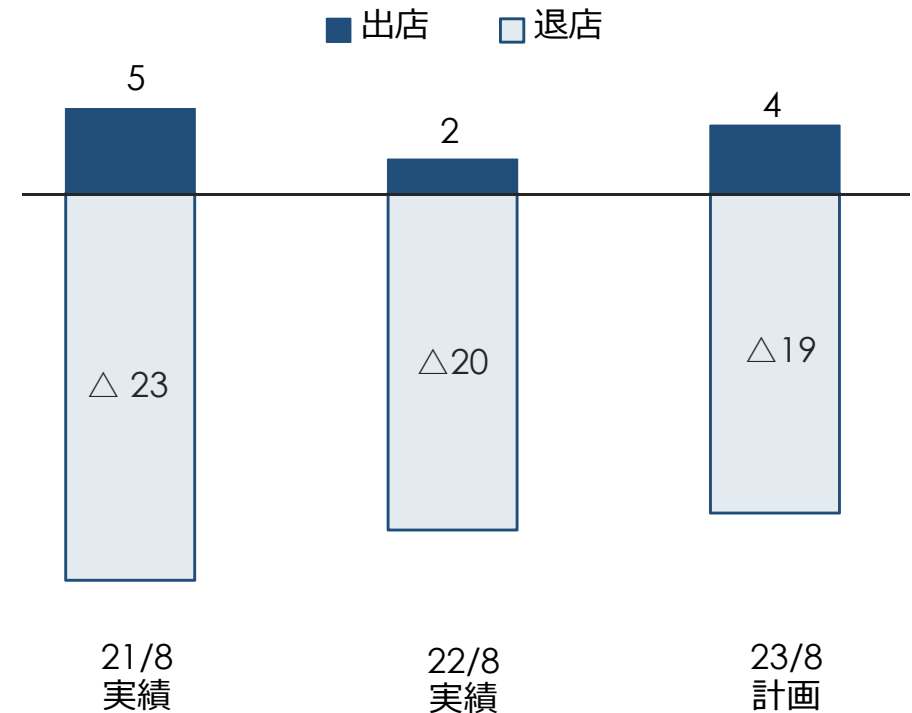


出退店店舗数計画

- 新規出店数は**4店舗**を予定
- 退店数は、引き続き不採算店舗の整理をすすめ、合計**19店舗**の退店を予定
- 期末店舗数は**379店舗**の見込み



■ 期末出退店状況



当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付けております。

しかしながら、2022年8月期の配当につきましては純損失となったことから、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。

2023年8月期の配当につきましても、現状の業績見通しや先行き不透明な社会情勢を勘案し、現時点においては無配を予定しております。

株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、皆様の株主還元のご期待に応えていけるよう新中期経営計画の取り組みを進め、可能な限り早期の復配に努めてまいりますので、今後も継続したご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

業績予想の適切な利用に関する説明

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

その他留意事項

資料内数値は百万円未満切捨て表示し、百分率は元データから算出しております。